

【今日の説教から】

パウロの獄中からの手紙を読み進めております。

彼は獄に捕らえられたことを肯定的に捉えています。それはすなわち、獄に捕らわれているのはキリストのためであることが獄の兵営全体に伝わったということ。これは使徒16章の獄での出来事を思うと納得できます。

次にパウロの入獄を機に、新たなる信仰の確信を得て、宣教の前進がなされたこと。

しかしもう一つの動きは、「ねたみや闘争心からキリストを宣べ伝える者がおり」、「わたしの入獄の苦しみに更に患難を加えようと思って、純真な心からではなく、党派心から」行っている人の存在でした。彼らはパウロの入獄をチャンスとして、自分の勢力を拡大しようと手を広げるのです。しかしそうであっても要するにキリストが宣べ伝えられればそれでよいとパウロは語ります。

しかし、獄での苦しみや今後の不安も相まって、いっそ天に引き上げられたいと一度は願うパウロでした。しかしやはりピリピの教会の人たちのことを思うと、肉体にあってこの地上にとどまり、彼らに仕え助けることこそがさらに必要なことだと祈りを新たにするのでした。

「わたしは生きながらえて、あなたがた一同のところにとどまり、あなたがたの信仰を進ませ、その喜びを得させようと思う。…わたしが再びあなたがたのところに行く」との言葉は感動的です。主の熱愛に裏打ちされた感情と行動を私たちも得たいと願います。

皆様、おはようございます。

朝早くの空気に少しの肌寒さを感じるようになりました。季節の移り変わりを感じます。

私たちはピリピの手紙からパウロの獄中の苦悩と祈りと愛とを今日も学びたいと願います。

1:12 さて、兄弟たちよ。わたしの身に起った事が、むしろ福音の前進に役立つようになったことを、あなたがたに知ってもらいたい。

私の身に起こったこと。それはパウロが福音宣教のゆえに、イエス様による神様の尊い救いを宣べ伝えるがために投獄されているということです。投獄という出来事の事実それだけ見れば、決して思わしくないもののように見えますが、しかしそれが「むしろ」福音の前進に役立つようになったとパウロは語ります。

17節に「わたしの入獄の苦しみ」とありますから、パウロはただただ苦しみなしに、「むしろこれは前進となった」と簡単に言っているわけではないと思います。獄の中、「兵営全体」の兵に囲まれ、彼には獄の中で辛いことがたくさんあったと思います。しかしこのこと

で教会のみんなには悲しんだり落ち込んだりしないでほしい。神様から決して見放され、罰を受けて失脚して獄の中にいるのではなく、私の身に起こったことにより、むしろ福音は前進している。福音は前進している。そのことによって私は今私が受けている苦しみの意味を悟るとパウロは語っているのではないでしょうか。そのことを知っていてほしいとパウロは語りかけます。

1:13 すなわち、わたしが獄に捕われているのはキリストのためであることが、兵営全体にもそのほかのすべての人々にも明らかになり、

その福音の前進はどのような起こったかと言いますと、パウロが獄に捕らわれているのはキリストのためであるということを、兵営全体、獄を守る兵隊全体にも他の人すべてにも明らかになったというのです。

使徒行伝16章のパウロとシラスの祈りと賛美の出来事から始まった主の御業と看守の救いの出来事が思い出されます。キリストのために獄に捕らわれる。キリストのために獄に捕らえられる。それはどういうことでしょうか。キリストご自身もまた、何も悪いことをしなかったのに、善い業のゆえに妬みを受け、迫害を受けて十字架にかけられました。私たちがキリストに生きれば生きるほど、キリストの道に近づけられれば近づけられるほど、牢にも近づくということでしょうか。しかし、キリストにあって獄に入れられている者のためには、神様のお力が働くのです。キリストが迫害され、十字架につけられ、死んで墓に葬られ、しかし3日目に復活されたように、キリストを信じるゆえに迫害を受ける者は、たとえ投獄されても、その罪科はほかの犯罪者たちとは全く異なり、その獄の中にも神様の働きはやむことなく続き、信じ迫害を受ける者を照らし続け、そしてその福音宣教の働きは妨げられることなく前進し続けるということがここには記してあります。

1:14 そして兄弟たちのうち多くの者は、わたしの入獄によって主にある確信を得、恐れることなく、ますます勇敢に、神の言を語るようになった。

入獄に至るまで働きを止めないとは愚かなことだ、獄に入ってしまっては何にもならないではないか。だいたい牢屋に入れられるということなど不名誉なことであって、福音伝道の妨げになるではないか…。このような声が聞こえてきそうですが、本当にキリストにあって、ただキリストにあって生き、宣べ伝えている者のためには神様の力が働くのです。そしてそのパウロの入獄の出来事から、兄弟たちの多くのものは、主にある確信を得て恐れることなく、ますます勇敢に神の言葉を語るようになったのです。

2コリント6:2 神はこう言われる、／「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、／

救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

6:3 この務がそしりを招かないために、わたしたちはどんな事にも、人につまずきを与えないようにし、

6:4 かえって、あらゆる場合に、神の僕として、自分を人々にあらわしている。すなわち、極度の忍苦にも、患難にも、危機にも、行き詰まりにも、

6:5 むち打たれることにも、入獄にも、騒乱にも、労苦にも、徹夜にも、飢餓にも、

6:6 真実と知識と寛容と、慈愛と聖霊と偽りのない愛と、

6:7 真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、

6:8 ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神の僕として自分をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、

6:9 人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、

6:10 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。

ローマ 8:35 だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。

8:36 「わたしたちはあなたのため終日、／死に定められており、／ほふられる羊のように見られている」／と書いてあるとおりである。

8:37 しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。

8:38 わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

8:39 高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。

そのように喜ばしいことが起こる一方、パウロの入獄によって機を見て惡しき意思をもつて働く人たちもいました。

1:15 一方では、ねたみや闘争心からキリストを宣べ伝える者がおり、他方では善意からそうする者がいる。

1:16 後者は、わたしが福音を弁明するために立てられていることを知り、愛の心でキリストを伝え、

1:17 前者は、わたしの入獄の苦しみに更に患難を加えようと思って、純真な心からではなく、党派心からそうしている。

ねたみや競争心。普段からパウロの目覚ましい宣教の働きをよく思わず、ねたみや競争心に駆られて見ていた人たちがいたことが分かります。彼らはキリストを見ず、パウロを見ていました。

パウロが獄中にいるのをよいチャンスだと思い、この間に、純真な心からではなくて、自分が目立つチャンス、自分の一派が大きくなるチャンスとばかりにふるまっていた人たちがいたことが分かります。そういう人たちが、パウロがキリストの愛の心で導いた人のところにやってきて、人の心で、ねたみや競争心や党派心で近づいてくる。しかしがパウロは獄の中にいてどうにもならない。パウロはどんなに苦しんだことでしょうか。このことをパウロは「わたしの入獄の苦しみに更に患難を加えようと思って」いると語っています。

しかしパウロはこう考えます。

1:18 すると、どうなのか。見えからであるにしても、真実からであるにしても、要するに、伝えられているのはキリストなのだから、わたしはそれを喜んでいるし、また喜ぶであろう。

しかしパウロは入獄の苦しみと更に患難の中にあって、苦しみの中にあっても、主をまた見上げるのです。そして人の汚れ多心の働きに勝って及ぶ神様の力を信じて賛美を捧げるのです。

1:18 すると、どうなのか。見えからであるにしても、真実からであるにしても、要するに、伝えられているのはキリストなのだから、わたしはそれを喜んでいるし、また喜ぶであろう。

1:19 なぜなら、あなたがたの祈と、イエス・キリストの靈の助けとによって、この事がついには、わたしの救となることを知っているからである。

「この事がついには、わたしの救となる」

この言葉には重い意味合いがあります。受け入れがたい出来事、まがまがしい出来事、そして自分には手も足も出ない出来事。心配で、辛く、将来を思えば思うほど気持ちが落ち込むこと。自分の思いに反することが横行し、教会の中であるにもかかわらず、純真な心がすたれ、ねたみや闘争心、党派心のもとに誰が偉いかといった勢力拡大の戦いが繰り広げられている。もうまっぴらごめんだと、そう思いたくもある、弱い自分自身の働きをも在り様を超えて、いつでも祈りにより、イエス様のお遣わしくださる聖靈の力により、「この事がついには、わたしの救となる」とパウロは信じ切っていたのでした。

1:20 そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあっても恥じることなく、かえって、いつものように今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。

そうであるならば、もうどんなことがあっても恥じることなく、恐れることなく、いつものように今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられること、そのことをのみ切実に待ち望むと彼は語ります。これも様々の困難の中にあえぐ私たちへの深い慰めなのではないでしょうか。

私たちがキリストのためにと願い進むのならば、私たちにとっては何をも恥じることもない、恐れることもない、大胆に語り、大胆に生き、生きるにも死ぬにも堂々として迷うことなく、ただキリストこそが強調され、キリストこそが誰の目にも明らかにはつきりと拡大され、あがめられるように、それが私たちの生きる意味である、生きようと死のうとも迫害などかまわないとパウロは語るのです。

1:21 わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。

1:22 しかし、肉体において生きていることが、わたしにとっては実り多い働きになるのだとすれば、どちらを選んだらよいか、わたしにはわからない。

1:23 わたしは、これら二つのものの間に板ばさみになっている。わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方がはるかに望ましい。

このキリストに似せられ、近づけられ、御前に引き上げられることが最高のゴールであり、したがって、生きることはキリスト、死ぬこともまたこれ以上にない益だと彼は語ります。パウロの入獄と患難。いろいろな人たちの思惑を見せられ、もう私は重荷を解き放たれてイエス様のもとへ行きたい、「わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方がはるかに望ましい」、板挟みにあって、どちらを選んだらよいか分からないとパウロは珍しくも本音に近いことを吐露します。しかし彼の思いは決して彼らをおいて一人離れるというものではありませんでした。それが遥かに望ましいのですが、彼はこう願っているのです。

1:24 しかし、肉体にとどまっていることは、あなたがたのためには、さらに必要である。

1:25 こう確信しているので、わたしは生きながらえて、あなたがた一同のところにとどまり、あなたがたの信仰を進ませ、その喜びを得させようと思う。

1:26 そうなれば、わたしが再びあなたがたのところに行くので、あなたがたはわたしにとってキリスト・イエスにある誇を増すことになろう。

ここにパウロの本心があります。ここにはねたみや、闘争心や、党派心で突き進んでいる人たちの決して理解できない境地があります。パウロは決して人の妬みに会うほどに高みに入れられていることを誇ってはいませんでした。それを鼻にかけて人を見下し、自分をどの

人よりも重要な人間だなどとは思いませんでした。彼は本来妬みを受けるような人間ではありませんでした。彼を妬みに思うのならば、彼のこの無視の精神、導くべき人のためならば自分の思いを優先せずに人のために価値あるものを捨てる決意を見習うべきです。そしてこの心はキリスト・イエスにもみられるものです。

闘争心や党派心でパウロの働きを伺うのならば、その前にもう一度彼のこの言葉を知るべきです。

1:24 しかし、肉体にとどまっていることは、あなたがたのためには、さらに必要である。

1:25 こう確信しているので、わたしは生きながらえて、あなたがた一同のところにとどまり、あなたがたの信仰を進ませ、その喜びを得させようと思う。

1:26 そうなれば、わたしが再びあなたがたのところに行くので、あなたがたはわたしにとってキリスト・イエスにある誇を増すことになろう。

私は獄の苦しみ、様々の苦しみの中にあっても生き永らえ、あなたたちのために肉体にとどまり、あなたたちと共にとどまり、あなた方の信仰が進むことを願い、助け、そこに喜びがある。また私はあなた方のところへ行く。そして仕え、教える。そんな私の姿を見て、そこにイエスキリストの姿を見て、あなたたちは自分たちが本当に価値ある命ある愛のある、真実な世界に入れられていることを知って誇りが増し加わるだろう。そうパウロは語っています。

私たちもまた、このパウロの愛に生きる、そしてすべてをキリストにかけ、委ね、捧げているパウロの生き方からこそ真実と誇りを見出して、好みとに生きていく望みを新しくしたいと願うのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。目の前に見える困難がどんなに積み重なろうとも、私たちは窮せず、あなたはそれでも私たちのために前進となることを成してくださると信じ続けることが出来ますようにお導きください。いっそ苦しみから解き放たれて楽を得たいと願いつつも、教会とキリストのためにパウロが捧げた愛の心とその実践の生活を今週私たちにもお導きください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン